

平成 28 年度 第 1 回白馬村総合教育会議 議事録

1 日 時 平成 28 年 7 月 26 日 (火)
開会 15 時 00 分 閉会 16 時 08 分

2 会 場 白馬村役場 3 階 全員協議会室

3 出席者 白馬村長 下川 正剛
白馬村教育委員会
委員長 塩島 弘之
職務代理 伊藤 公一
委 員 西澤 みどり
委 員 田口 令子
教育長 横川 宗幸

(事務局)

教育課長 横川 辰彦
教育係長 遠藤 裕子

4 協議事項 (1) ICT 教育事業について
(2) 給食施設建設事業について
(3) 白馬高校支援事業について
(4) その他

5 議事の概要

○開 会

横川教育課長が開会を宣言した。

○あいさつ (下川村長)

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。まだ梅雨明け宣言がなされず、花三昧や山岳観光が若干低調だという話もあり、これから最盛期に向かって大勢のお客様に来ていただくことを願うところであります。

今朝、神奈川県相模原市で大きな事件がありました。20 名近くの障がい者の方が亡くなり、大勢の負傷者が出ていると報道されておりますが、弱者がまた犠牲になり大変心を痛めているところであります。

さて、今日の総合教育会議であります。皆様方のご意見をいただきながら進めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○協 議 (議長は下川村長)

(1) ICT教育事業について

- ・横川教育課長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長が、ICT教育事業に関しての発言を求めた。
- ・西澤教育委員 中学校からの資料ではタブレット端末をたくさん使っているように見えるが、聞くところ1年生は数えるほどしか触っていないようである。ICTパイロット校でその現状というのは悲しい感じがする。
- ・横川教育長 1年生と3年生については、基本的には従来から学校にある10台ほどのタブレット端末を、主にグループ学習の場において活用している。1年生の使用頻度が少ないのは、入学の関係で使い始める時期が遅いからかと思う。また、今年度の新1年生への導入は大変に厳しいという状況を受け、1年生にも使えるように各学年に26台ずつ分けて活用するという方策を、学校として提案をしてもらっているところである。
- ・下川議長 教科担任により使用時間に差があると書かれているが、その点はどうなのか。
- ・横川教育長 先生方によって得手不得手があったり、授業の内容によっても違いがある。
- ・塩島教育委員長 当初の計画では昨年度から3年計画で全員に持たせるということだったが、加速化交付金がつかなかったこともあり、中断の状況になっている。タブレットは持ち運びが便利だったり、集団で繋がっていく時に効果を発揮する機器であるので、できればいつでも手元に置き自由に使えるようにしたい。本来の計画のように全員が持てる方向で取り組んでもらいたいが、補助金がつくかどうかの見通しをお聞きしたい。
- ・横川教育課長 補助金として考えられるのは、元気づくり補助金、ふるさと納税の地域教育力などである。
- ・下川議長 確認しないといけないが、元気づくり交付金は今年度で終わるという話もある。また、加速化交付金は第2次でも同じようにあげてあると思うが、担当課ではその辺の情報を聞いていないか。
- ・横川教育課長 交付金申請の出し直しをした。受理はしてもらったが、その後何の沙汰もない。
- ・下川議長 白馬高校の寮についても、県や白馬小谷両村も携わっている連携の事業であり、村としても期待をしていたが、交付金をばっさり切られた経緯もある。
- ・塩島教育委員長 来年度に申請はできるのか。
- ・下川議長 来年度も加速化交付金というかたちで出てくるか分からない。地方創生もはじめは地方の活性化という話であったが、どんどん厳しくなっている。
- ・塩島教育委員長 ふるさと納税からまわしてもらうことは可能なのか。
- ・下川議長 ふるさと納税は使途が明記されている。何に使ってもいいという人や教育にという人もいるが、大きな金額ではない。白馬は環境面への寄付が多い。村としても努力をしていかなければいけないと思っている。
- ・塩島教育委員長 白馬中のタブレットを学年に分けると26台ずつのことだが、

1 学級の人数をカバーできるのか。

- ・横川教育長 1 学級はカバーできる。
- ・下川議長 27 年度はタブレットを何台整備したのか。また今年の予定は。
- ・横川教育長 27 年度は110 台、今年80 台を予定していた。
- ・下川議長 いくらかかるのか。
- ・横川教育委員長 今後必要な160 台を整備するとすれば、4900 万円がかかる。リースにすると、これを5 年で割ることになる。
- ・下川議長 先ほど西澤委員からほとんど使っていないという話もあったが、せっかく高いお金を出して整備をしても、有効に活用されていないというのは如何なものかと思うが。
- ・西澤教育委員 今は2 年生がメインに使っているので、3 年生と1 年生はあまり使えていない状況になっている。今年度に80 台が入らないと、今後も1 年生と3 年生は使いづらく、学年によってやり方の差が出てくる。
- ・横川教育長 9 月16 日に白馬中学校でICT のシンポジウムがあり、9 月末に総合発表会での発表もあるので、そこを一区切りとして各学年に分けるとの考えを学校ではもっている。4 月に学校でNRT という学力テストを行うが、中学校では、ICT の活用や学習支援ボランティアの導入等の成果もあり、国・社・数は1.6～3.4 ポイント前年より伸びているとの報告があった。
- ・塩島教育委員長 できれば一人一台で常に持ちながらやっていくことが一番効果が出るだろうと思うが、80 台を入れるには2500 万円くらいかかるということか。また、それは5 年間のリースなのか。
- ・横川教育課長 一括の事業費である。5 年リースとなると単年度の負担はもう少し下がるが、総額で行くと2500 万円よりもう少し高くなる。
- ・塩島教育委員長 来年度の分だけ先に払うとすれば、多少負担は軽減されるか。
- ・横川教育課長 導入経費のうちの設置費用や設定費用は割ることはできないため、初期費用としてあるが、端末はリースするのでその分安くなっていく。ただ単純に5 では割れない。
- ・塩島教育委員長 上手くできるようなら検討し、来年度の導入ができるようお願いしたい。
- ・横川教育課長 事務的には新年度予算編成は11 月以降に始まるので、教育課として委員さんの方針を聞いた中で、財政当局と予算折衝をして進めていくことになる。
- ・伊藤教育委員長職務代理 多少なりとも効果が認められるということになれば、財政的に難しいだろうが、できる限りの補充をしていただきたい。また、今はタブレットが主流になりつつあるので、勉強だけでなく違う面でも必要になってくと思われる。

(2) 給食施設建設事業について

- ・横川教育課長が、会議資料により説明した。

- ・塩島教育委員長 建設委員会の委員長を仰せつかっているので、補足したい。基本的な考え方は、安心・安全な調理施設である。国の衛生基準は大変厳しく、これをクリアできる調理場を見通しを持ってつくる必要がある。もう一つはアレルギー対応。今は子どもたちの中に多様なアレルギーが出てきており、きめ細かく一人一人に合った対応をしていかなければならない。平成27年にアレルギー疾患対策基本法ができ、これにも対応できる施設をつくっていく必要がある。3つ目は食育である。子ども達だけでなく、村民への学習に繋がっていければよい。4つ目は地産地消である。このような基本的な考えの基に、どのような調理場をつくれればいいのか検討している。また、調理場の場所については、検討した結果、中学校の西側を第一の候補地とした。今後、調理場の周辺の方によく説明して理解と協力をいただくことや、地場産の活用では農業との連携を大事にしたい。また、建設委員会では景観に配慮という意見も出た。事前のアンケートでは、幼稚園など義務教育以外の施設へ給食提供をという要望もあったと聞いた。今後検討していく必要がある。また、財源の確保が必要であるのでお願いしたい。
- ・横川教育課長 以前に財源確保にあたり複合施設という提案が財政当局からあったが、複合施設は制約が強くなり両方の施設が中途半端になるおそれがある。50年間安心できる施設を目指すのに中途半端なものをつくるのは如何なものかということで、複合施設の話は白紙となった。また、限られた予算の中で景観に配慮したものがどのようにできるかということについては、先進地の視察等で建設委員会委員の皆さんにイメージを膨らませていただきたいと思っている。財源については財政当局と頭を悩ませており、交付金が可能かどうか等、事務局としても併せて進めていきたい。
- ・西澤教育委員 委員長から給食施設の幼稚園利用の話があったが、小谷で給食施設をつくる時、保育園・小学校・中学校を一緒にしたらという話があったが、保育園は食材を細かく切らないといけなかったり、小・中学校と給食時間が違うことから保育園の先生の強い反対があって保育園は分けたという経緯を聞いたことがある。今回の給食施設は小・中学校ということで計画が進んでいる。あれもこれもとなるとどれも中途半端になるので、まずは最初の計画に沿ったものをしっかりやっていただきたい。
- ・横川教育長 基本的には小・中学校で計画を進めている。
- ・塩島教育委員長 これから建設委員会の中で検討はしていきたい。今までの中では、かなり難しいのではないかという意見が出ている。
- ・伊藤教育委員長職務代理 委員会の中で景観にということが出ているようだが、村の振興的建物ではないので、景観やデザインを重視するあまり、機能的でないものやいらぬもの取り込むことはやめたい。白馬中のように形はいいが修理のコストがかかるような建物だけにはならないよう気をつけたほうがいい。
- ・横川教育長 先ほどの景観というのは、給食施設ができたために今までのように中学校の中から山々が見えなくようでは困るということも含めて、景観への配慮という意見だと思う。

- ・下川議長 建設委員会で議論をお願いしたい。
- ・塩島教育委員長 こったデザインだと費用もかかるので単純なものでよいとの意見も出ている。
- ・下川議長 今まで検討委員会は何回やっているか。
- ・塩島教育委員会委員長 4回実施している。お盆過ぎに基本設計に入り、4月から着工し、2年間かけてつくる予定である。

(3) 白馬高校の支援事業について

- ・横川教育課長が、会議資料により説明した。
- ・下川議長 白馬高校の関係については、課長会議等でいろいろな話しをしないと、ここでどうのという話にはならない。私は教育委員会でやるべきだと思っているので、内部的にも話を詰めながら進めていきたい。
- ・下川議長が発言を求めたが、質問や意見は特になかった。

(4) その他

○白馬中学校信州型コミュニティースクールについて

- ・横川教育課長が、会議資料により説明した。
- ・横川教育長 補足したい。コミュニティースクールの事前打ち合わせをしており、中学校では9月くらいに学校運営委員会を立ち上げられればとの方向で進んでいる。その中で一番大きいのは学習支援ボランティアであり、大勢の方に登録していただき、毎週水曜日を中心に数学・英会話・斜面の書き写し・読み聞かせ等を行っている。
- ・下川議長 教育委員会との関係はどうか。心配しているのは、教育委員会も入りながら、学校運営委員会の方もあって、方向性が一致するかどうか。
- ・横川教育長 そこは信州型の特徴で、白馬中学校が中心であり、学習支援ボランティアの方々や外部評価の方々に支援していただくもので、あくまでも中学校がメインの組織にしていく。
- ・塩島教育委員長 県の方では29年度には100%を目指すとしており、現在は60%ほどとなっている。白馬中は見通しがつき、小学校は準備を進めているところであり、いずれほとんどの学校がこうなる。学校は敷居が高いので、地域の人が入っていきやすくするねらいもある。
- ・下川議長 白馬村はいろいろな人が入ってきて、我々の知らないような知識がある方がいっぱいいるので、そのような方をボランティアにお願いしてやっていくことは非常によいことと思う。
- ・横川教育長 中には、お盆にこちらに来た時に学校に立ち寄ってボランティアをやってくれる人も居る。
- ・塩島教育委員長 よその学校では登下校の安全を見守るボランティアとか、学校の草取り作業に来てくれるおじいさんのおばあさん、読み聞かせに来てくれる人な

ど、自分のできる範囲で関わってくれている。そうすると地域の方の関心もより向く。

- ・横川教育長 西澤教育委員さんも関わってくれているので、補足をお願いしたい。
 - ・西澤教育委員 昨年から、斜面の書き写しの添削のボランティアをしている。ボランティアの人数が今年増えたので、一人の見る量が減っている。自分の都合のつく時間だけ行き、時間に縛られることもない。今後ボランティアが増えていけばいいが、誘っても無理と断られることが多いので、気軽に来てくれるといい。また、昔の南小はまさにこのコミュニティースクールで、地域の方が校舎の屋根雪をおろしに来たり、クラブ活動も親が教えに来たりとかしていた。昔はそうやっていたのにだんだん壁ができてきて、それが現代の時代なのかという気がする。わざわざコミュニティースクールと言わないとできなくなっていることがちょっと寂しい。
 - ・田口教育委員 随分子育てから離れてしまい、教育委員になって初めて聞いたことがたくさんある。敷居が高いということあるが、知らないということがすごく多いと思う。それぞれの地区でボランティアの内容をつくっているのか。
 - ・塩島教育委員長 ボランティアの内容については、学校の要望もあったり、地域の方の希望もあるので、コーディネーターがうまく情報を集めて繋いで、それをまた学校運営委員会等で揉んでもらう。調整役が必要で、やたらに取り入れてしまうと学校の先生も負担になるし、地域の人もしゃくしゃくやってあげたのにと、善意のすれ違いが起きることも考えられる。その辺を上手く調整しながらやっているのが現状。
 - ・田口教育委員 気楽に参加できるような方法を考えていただければありがたい。
 - ・下川議長 最近区に入らない人がいるので、学校ボランティア活動を通じて、白馬村民が一緒になってやっていく姿になれば、白馬村が一つになっていくことも期待できる。
- ・下川議長が協議の終了を宣言した。

○閉 会

- ・松澤教育課長が閉会を宣言した。